

令和2年度 第2回 八雲町立図書館協議会 議事録要旨

1	日 時	令和3年1月13日(水) 18:30~19:30
2	場 所	八雲町立図書館 二階 集会室
3	出席者	—委員—
		■会長/伊藤 一年 ■副会長/澁谷 克巳
		■委員/浅井 久司・太田 幸恵・小林幸子・山中 久江 ※欠席者なし
		—事務局(八雲町教育委員会 八雲町立図書館)—
		■教育長/土井 寿彦 ■館長/佐藤 真理子
		■職員/管理係長 笹田 幸男・奉仕係主事 藤本 陽子
4	議 事 録 要 旨	(開会)
		(教育長挨拶)
		(伊藤会長挨拶)
		報告第1号 令和2年度 八雲町立図書館・熊石総合支所図書室 利用状況について
		【事務局】 概要説明→質疑なし。
		報告第2号 令和2年度 八雲町立図書館 施設利用状況について
		【事務局】 概要説明→質疑なし。
		報告第3号 令和2年度 八雲町立図書館・熊石総合支所図書室 事業実施状況について
		【事務局】 概要説明→質疑なし。
		報告第4号 令和2年度 読書感想文・感想画コンクール審査結果について
		【事務局】 概要説明→質疑なし。 【委員】 (学校関係者会議の機会に於いて打診) 子どもにとって、文を読み読解力を高める良い機会でもある。各学校で作品に取り組み計画を検討しながら応募数の偏りについても緩和を図りたいと考える。
		議案第1号 令和2年度 八雲町教育委員会事務事業(令和元年実施分)評価について
		【事務局】 評価対象事業(下記①②)について概要説明の上、評価を仰ぐ。 【委員】 ①「図書館フェスティバル開催事業」→担当課評価検証結果と同じく「A」評価 【委員】 ②「読書感想文・感想画コンクール開催事業」→担当課評価検証結果と同じく「A」評価 ※「A」評価…現状にて事業を継続または拡充
		<p>〈 ①について 〉</p> <p>【委員】 ・R元年度特別講演を鑑賞し、多くの方が参加されており、貴重な機会を頂いた。 ・今年度もコロナ禍にあって対策を講じながらも色々な参加事業を実施頂いた。</p> <p>〈 ②について 〉</p> <p>【委員】 過去一般応募はどの程度なのか。 【事務局】 平成30年度に2名の応募はあったが、数年に一度1名いればという程度である。 【委員】 子どもたちだけでなく一般応募も増やしたいということであれば親にも呼びかけて、読書の楽しさを知ってもらい親子での参加を促す形はどうか。 【委員】 門戸を広げるのはいいが、親も感想文に応募するのはハードルが高く難しいのではないかと思う。 本を読む子どもを増やすにはまず親からというのは確かにあると思う。 【委員】 応募数については毎年募集してみないとわからず、特に低学年は応募数も少ない。それでも例年多くの子どもの応募があることは恵まれていると思う。今の時代、スマートフォンの普及や子育て世代がとにかく忙しいなど理由は多々あるだろうが、読書離れの対策として親が子どもと本を読む環境をどうやって作っていくかはやはり大きな課題であると思う。 【委員】 親に応募を強制することはできないが、親に本を読んでもらうよう伝えることは必要ではないか。 【委員】 20年、30年前から本離れは叫ばれ続けている。(一小学校例として)配布されたChromeBookを活用して、読書の感想を先生と児童でやり取りするといった取組により子どもの読む本が増えている。学校の規模にもよるだろうが、ICTの活用も含め、とにかく本に慣れることから始めることが重要ではないか。 【委員】 町の感想文コンクールで受賞した作品は、渡島青少年読書感想文コンクールなどへの繋がりはあるのか。 当町単独の主催・募集・評価・表彰であり、他が主催するコンクールへの繋がりはないが、平成29年度開催時より、他が主催するコンクールへの応募作品を当町コンクールへも応募可能として部門構成・応募条件の見直しを図った経緯がある。</p>
議案第2号 令和3年度 読書感想文・感想画コンクール 審査委員の依頼について		
【事務局】 次回開催に先駆けて、審査委員2名を依頼したい旨説明。 →前回は引き続き、「小林幸子」「山中久江」両委員より了承の意向あり、依頼する事とする。		
その他 全体を通して		
【事務局】 コロナ禍の長期化が見込まれ、次年度も対策を講じながらの開館と思われる。出来る事、出来ない事、制限を要するものなど、アクセルとブレーキのバランスを思案しながら、各事業実施の検討を図りたい。		
5	閉 会	